週報

IPP関西支部

アスカカンパニーを訪問

IoT技術の活用シーン学ぶ



充実の工場見学会を終えた参加者たち

日本包装管理士会関西支部（桃川公一支部長）は1月25日、プラスチック成形メーカー・アスカカンパニーの本社工場を訪問し、IoT技術の活用シーンを学んだ。多品種小ロットをコンセプトに夜間無人運転を実施する「Sサイト」と、クラス1万のクリーンルームのもと量産体制を構築した「Nサイト」を視察した。

Sサイトでは、データベース技術と画像検査装置を組み合わせた省人化ラインを見学。ビッグデータを活用した製造ノウハウを学んだ。

同サイトでは午前0時から午前7時までを完全無人操業としている。品質不良について、アスカカンパニー・小林孝洋取締役評価センター統括責任者は「自社開発カメラの初期導入工程で、4年間の1億個出荷でクレーム0件達成」と強調。画像解析・成形ログ解析から、不良発生を未然に防ぐ仕組みを説明した。

引き続きNサイトでは、1日平均約12万個の生産能力を持つ高速ラインを視察。乳製品容器の蓋材や化粧品容器の生産ラインを見学し、高品質かつ安定供給に向けた取り組みを学んだ。参加者からは機械メンテナンスや異物混入対策、梱包材の取り扱いに関する質問が飛び交い、品質に対する厳しい管理体制を紹介した。

その後、同社評価センターの前川明日香氏を講師に迎え、特別セミナーを開催。主にSサイトで取り組む「稼働状況の見える化」を解説し、IoTシステムの活用で得た実績を紹介した。「将来的には機械学習の導入で、高精度な予測モデルを確立」と話し、現在研究中であることを明らかにした。


講演する前川氏

ムサシ

3月7、8日に開催

春の大商談会とセミナー

ムサシ（東京都中央区、☎03・3546・7733）は3月7、8日の2日間、東京・六本木の富士ゼロックス、グラフィックコミュニケーションサービス東京で「ムサシ春の大商談会」とセミナーを開催する。

大商談会は、富士フイルム、富士ゼロックス製品をはじめとした印刷システム機器の提案や高付加価値・環境配慮・国際貢献をテーマに行う。

セミナーは3テーマ。①7日13時30分～「税制優遇活用のポイント」（講師＝富士ゼロックスGCS営業部　栗田和哉氏）②8日11時～「クライアント様が注目しているSDGsとは？」（同＝先端教育機構主任研究員　白田範史氏、フジテックス営業部　石川貴志氏）③同13時30分～「効果的な販売促進につながるPODマテリアルのご紹介」（同＝富士ゼロックスGCS営業部チーム長　鎌形明氏）

POF

前年比2.6％減

2018年12月実績

日本ポリオレフィンフィルム工業組合（＝POF）はこのほど、2018年12月の国産インフレーションフィルムの出荷実績をまとめた。総量は4万2495㌧で、前年比2・6％減に転じた。

ただ、暦年実績は49万9276㌧で実に11年ぶりの前年増となった。

12月実績の内訳は、産業用途、ごみ袋用途、農業用途など広範囲の分野で普及する主力のLDPEが前年比3・0％増の2㌧。レジ袋やフレ成形の農業や産業広く使用されるEが11・3％減の4672㌧に転じた。

（1面）

JPI

管理士講座の受講者

6月開講、実務を短

日本包装技術協会（＝JPI、藤重貞慶会長）は、2月から3月22日まで第54期（2019年度）包装管理士講座」の受講者を募集を開始している。同講座は包装に携わる人にとって必要不可欠な知識から社会ニーズの変化に対応した包装の最新情報まで幅広い内容で構成。業界の権威や経験者を講師に招いて短期集中で実務を研修し、包装・流通のスペシャリストを養成する。

受講者は「生活者包装」か「輸送包装」のいずれかを選択。教科、材料、コース合同括教科、記試験、ケーススタディー（生活コースを終了後に提出する。医薬品包装専攻者は包装のいずれか